アイヌ施策推進地域計画 事後目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	目標年度
標津町	標津町アイヌ施策推進地域計画	令和5年度

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における目標	目標値 A	実績値 B	達成率(%) B/A	備考
①出土品の同定数等 同定数について、5か年計100点	100	328	328%	5か年累計
②アイヌ文化教室の参加人数 参加者数の着実な増加、5か年で100人	100	187	187%	〃
③アイヌ文様ラッピング車輛の利用者数 年間利用者について、安定的に27,000人を目指す	27,000	17,094	63%	R5実績
④ポー川史跡自然公園の来場者数 年間来場者について、安定的に5,000人を目指す	5,000	5,236	105%	〃
⑤サーモン科学館の来場者数 年間来場者について、安定的に50,000人を目指す	50,000	41,092	82%	〃
⑥アイヌ生活館の利用者数 年間利用者1,000人規模を目指す	1,040	851	82%	〃

アイヌ施策推進地域計画 における目標	達成状況	備考
①出土品の同定数等 (遺跡群学術調査及び文化財保存活用等検討事業)	<ul style="list-style-type: none"> 計画策定時に想定したよりも細かな出土品を同定する方法を採用したことから、達成率 328%と目標を上回っている。 これにより文化財の価値の明確化や文化財保存計画の策定が完了するなど、関連施策の推進に寄与した。 	
②アイヌ文化教室の参加人数 (アイヌ文化理解促進関係事業)	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響を受け参加人数が伸び悩んでいたが、少人数の旅行者に対応できるよう開催方法を変更したことで参加者が増加。達成率 187%と目標を上回ることができた。 さらに、刺繍体験だけでなく、アイヌの歴史文化学習を取り入れたことで、より一層の理解促進が図られた。 	

<p>③アイヌ文様ラッピング 車輛の利用者数 (アイヌ文様ラッピング バス整備事業) (アイヌ文様ラッピング ワゴン整備事業) (アイヌ文様ラッピング 車両総合交通事業)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の性質から新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、利用者数が伸び悩み、達成率は63%に留まった。 ・感染症等の影響はあったが、安全対策を採りながら事業を継続し、交通手段の限られた地域の交通基盤を確保・強化することができた。 ・さらに、車内に設置したPRパンフレットにより、アイヌの歴史文化の理解促進と普及啓発が図られた。 	
<p>④ポー川史跡自然公園の 来場者数 (アイヌ文化観光ルート及 びメニュー構築事業) (アイヌ文化財展示用レプ リカ等制作活用事業) (観光施設等整備事業)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集客施設であるため新型コロナウイルスの影響を大きく受けたが、感染症が5類に移行後、来場者が回復し達成率105%と目標を上回ることができた。 ・リニューアルしたサーモン科学館での関連文化財展示等による誘客案内や新たな観光メニューの構築による効果が見られ、観光振興とアイヌ文化の理解促進・普及啓発が図られた。 	
<p>⑤サーモン科学館の 来場者数 (アイヌ文化観光ルート及 びメニュー構築事業) (アイヌ文化展示用レプ リカ等制作活用事業) (観光施設等整備事業)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人流減少や長期の臨時休館など新型コロナウイルスの影響で集客に苦戦し、達成率は82%に留まった。 ・しかし、感染症が5類に移行してからは来場者数が回復傾向にあり、サーモン科学館2階展示を『日本遺産「鮭の聖地」エキシビジョンルーム』としてリニューアルするなど、アイヌ文化の理解促進と地域の周遊ルート構築に大きく寄与した。 	
<p>⑥アイヌ生活館の利用者数 (茶志骨生活館建替事業)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響でコミュニティ活動が停滞し、達成率は82%に留まった。計画期間後半は利用者が回復傾向にあったもののコロナ前の水準には戻らなかった。 ・感染症の影響により年配者の寄り合いなどが減少する中、茶志骨地区生活館の建替えにより利便性が大きく向上し、利用者増加と地域交流の活性化が図られた。 	

<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で目標値を下回る項目もあったが、感染症の5類移行後は回復傾向が見られ、事業の効果が確実に現れている。 ・文化財の保存活用計画の策定により取組みの方針が明確化し、文化財等の保存活用を適切に推進することでアイヌ文化の理解促進、普及啓発、観光振興など様々な取組みを進めることができた。

2. 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>【アイヌ文化の保存または継承に資する事業】 遺跡群学術調査及び文化財保存活用等検討事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財保存活用検討会を累計 22 回開催し、同定する出土品の選定やその年に同定する数などについての検討、文化財保存活用計画の策定を行った。 出土品の同定や年代測定を実施した。(累計 328 点) イオル再生のため、人工蛇行環境を創出するバープを 2 基設置した。 	<p>標津町</p>
<p>事業の効果</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 文化財の価値明確化や文化財保存計画の策定が完了するなど、KPI 設定事業のみならず計画関連施策全体の推進に寄与した。 標津遺跡群はアイヌ文化形成史を語る上で欠くことのできない重要な遺跡であり、調査成果に基づいて内外に発信できるようその価値を整理することができ、アイヌの文化や伝統の普及啓発に寄与した。 遺跡周辺に伝統的生活空間「イオル」の環境を再生する取り組みが始まり、遺跡と周辺自然環境が一体的に残る史跡標津遺跡群が創出されたことにより、歴史文化の深掘りやこれらを活用した地域産業振興がバランスよく進行し、アイヌ文化と地域産業との関わりなどについて一般の人にも解りやすい情報発信の推進が図られた。 	

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>【アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業】 アイヌ文化理解促進関係事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財活用周遊イベントを開催し、アイヌの歴史や文化の普及振興を行った。(イベントのR5参加者：延べ1,554人) アイヌ刺繍体験教室を開催し、技術の継承を行った。(延べ参加者数187人) アイヌ文化学習プログラム「サケの聖地読本」を制作・印刷(300部)し、町内の小中学校に配布した。 	<p>標津町</p>
<p>事業の効果</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度から4年度まではコロナウイルスの影響でアイヌ文化教室の中止や開催回数的大幅な減少などの措置を取るなど、思うように事業を進めることができなかったが、感染症の影響が落ち着き始めた令和5年度からは、少人数旅行者にも対応できるよう開催方法を変更して、教室では刺繍体験だけでなくアイヌ文化におけるデザインや色の意味などをレクチャーしたことでアイヌ文化に対する理解や興味関心が図られ、参加者から好意的な反応が寄せられた。 また、KPI 設定以外の事業では、アイヌをテーマにしたミュージカル公演、町内文化財を巡るウォーキングイベントなどを開催(延べ参加者数 118 人)し、アイヌ文化を含めた町内の歴史文化に触れる機会を創出。ふるさと教育、シビックプライドの醸成に寄与した。 	

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>【観光の振興その他の産業の振興に資する事業】 <u>アイヌ文様ラッピングバス整備事業、アイヌ文様ラッピングワゴン整備事業、</u> <u>アイヌ文様ラッピング車両総合交通事業</u> ・市街循環線においてラッピングバスを運行した。(R5_ハイエース1台、281運行)</p> <p><u>アイヌ文化観光ルート及びメニュー構築事業、観光施設等整備事業、PR資材整備活用事業</u> ・町内の史跡を紹介するWEBサイトを構築し運営した。(累計約12,000PV)</p> <p><u>アイヌ文化財展示用レプリカ等制作活用事業</u> ・標津番屋屏風のレプリカを作成し、サーモン科学館2階展示室『日本遺産「鮭の聖地」エキシビジョンルーム』に常設展示し、町内外で行われるイベント展示に活用した。</p>	<p>標津町</p>
<p>事業の効果</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌラッピングバス事業について、誘客、交流人口の拡大を目指す事業であるためコロナウイルス感染症の影響を大きく受けた。交通事業は感染症の状況に依るところが大きく利用数が停滞したが、交付金を活用し車両の整備や安定的な運営体制を確保したことで日常的にアイヌ文様を目にする機会が創出され、アイヌ文化の普及と地域交通基盤の強化が図られた。 ・アイヌ文化観光ルート等事業について、ポー川史跡自然公園とサーモン科学館はコロナウイルスの影響で来場者が減少し、令和元年度から令和3年度は長期の臨時休館などの対応を余儀なくされた。令和4年度からは来場者が回復傾向にあるが、サーモン科学館の来場者数は目標値に届かなかったが、令和3年度に交付金を活用してサーモン科学館2階展示室を『日本遺産「鮭の聖地」エキシビジョンルーム』としてリニューアルし、当該コーナーで実施したポー川史跡自然公園への誘客案内、パンフレットやCG動画などPR資材の活用、観光ルートの構築などにより、ポー川史跡自然公園の来場者が目標値を上回る(目標:年間5,000人、R5実績:5,236人)など、観光振興とアイヌ文化の理解促進・普及啓発に大きく寄与した。 ・アイヌ文化財展示レプリカ事業について、文化振興事業で整備した出土品や文化財、高精度のレプリカなどをサーモン科学館2階への常設展示や町内外で行われるイベント展示に活用することで、各施設や町内に点在する文化財等を効果的に発信することで、アイヌ文化の理解促進・普及啓発に大きく寄与した。 	

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>【地域内及び地域間の交流並びに国際交流の促進に資する事業】 茶志骨生活館建替え事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和49年に建設され老朽化した生活館の改築を実施した。 	<p>標津町</p>
<p>事業の効果</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の影響でコミュニティ活動や年配者の生活館利用が減少したが、状況が落ち着いてからは利用者数が回復傾向にある。 ・令和5年度にアイヌ交付金を活用した茶志骨生活館の改築が完了し、安心・安全で利便性の高い地域の中核施設が整備され、施設の活発な利用と地域交流がより推進された。 	

3. 今後の方針等

<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文化の保存継承事業については、文化振興事業で整理された歴史資料や文化財をサーモン科学館2階に展示するなど地域産業振興に活用することができ、また地域産業を振興することで地域住民のアイヌ文化への関心が高まるなど歴史文化の普及にフィードバックされるなど、相乗効果のある取組みを進めることができたことから、引き続き文化財の整理などを行い普及啓発を推進する。 ・アイヌの伝統文化理解促進事業については、文化財周遊イベントや刺繍教室などを実施したことにより着実にアイヌ文化への理解や関心が高まっていることから、今後は、日本遺産「鮭の聖地」の物語を基軸に、アイヌの歴史や文化・地域産業の振興、文化財の保存などの面で連携するなどして効果的な普及啓発に取り組んでいく。 ・観光振興事業については、ラッピングバスにより日常生活の利便性が向上するとともにアイヌ文化の普及啓発にも寄与していることから、PR資材や新たに構築した観光ルートを有効に活用し、引き続き効率的な運用を検討し実施する。 ・茶志骨生活館については、R5に改築したことにより利便性が向上し、使用者も増加していることから、引き続き文化教室などを開催するなどして地域のコミュニティの強化を図る。
--